

小牧山城

はつづがわら版

第2号

20131128



表土
現代の造成土
城郭の面(黒色土層)
石垣?

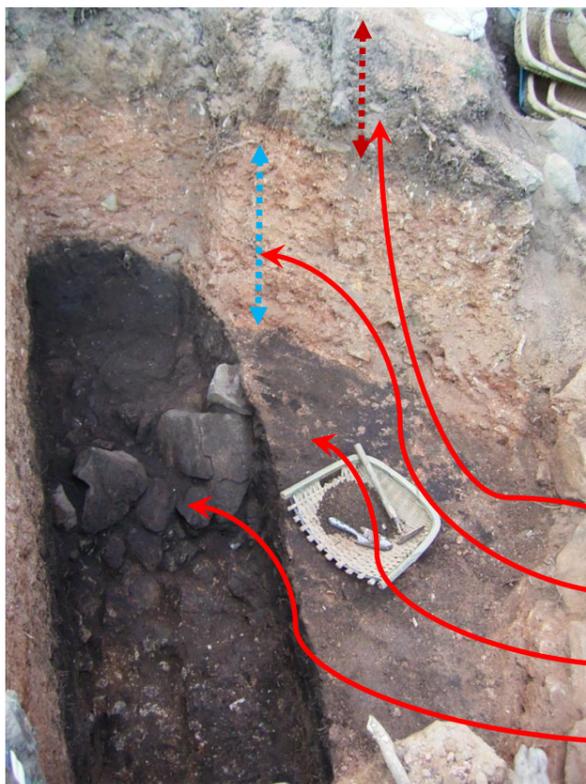
小牧山の紅葉がまさに見ごろを迎えています。秋の高い空にモミジの鮮やかな赤色がよく映えています。さて、発掘調査は主郭（本丸）の東側、N区と名付けた調査区で順調に実施中です。ここには、左の古城絵図にあるように本丸東側に位置する出入口（虎口）がある可能性があります。

★ 小牧村古城絵図
印がN区
(部分拡大)



N区 調査中

N区で作業を進めていくにつれ、興味深い状況が明らかになりつつあります。(右写真参照) この部分では表土の下にオレンジ色の砂礫による造成土が1~1.5mもの厚さで積まれていて、お城が築かれた当時の地表面(黒色土層)はその下で確認されました。写真のように一部には石垣らしきものも認められます。この分厚い造成土は昨年度の調査区でも確認されており、昭和期の工事の際のものと考えられます。



～小牧山の樹木～

今でこそ深い緑に覆われ、豊かな自然の宝庫ともいえる小牧山ですが、戦国時代、城郭として利用されていたときは木は全て切り払われ、丸裸でした。江戸時代の絵図をみると松と竹が主体の外観だったようです。昭和34年の伊勢湾台風により山中の木々の多くが倒れてしまいました。現在生えている樹木のほとんどはその後成長したものと思われる。



小牧山外観 (昭和四十二年頃)

調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会

